

「安全は、すべてに優先する」

でも、もし事故が起きてしまったら・・・

こんにちは！気まぐれ通信のページをご覧ください、ありがとうございます。
今回は、先ごろ実施した「傷病者対応訓練」の様子をお伝えします。

サポート隊では、活動開始前の「安全講習」や、現地に着いてから「KY（危険予知）活動」を行って、事故の防止に努めています。
そのため、救急車を要請しなければならないような事故は起きていません。
それでも、いざという時に慌てないで対処するために、例年、東京都森林組合の指導員とサポート隊事務局は、活動地で「傷病者対応訓練」を行っています。

サポート隊活動で発生の可能性のあるリスクは、以下のようなものがあります。

- 1) 活動地は山間部の傾斜地や足元が不安定な場所であることが多く、転倒などで擦り傷が出来たり、捻挫や骨折する。
- 2) 作業によっては刃物を使うため、手足・指などを切ってしまう。
- 3) 夏場はハチに刺されたり、暑さで熱中症になる。
- 4) 冬場は汗をかいた後の冷えやヒートショックにより、低体温症や心筋梗塞、脳梗塞の危険性が高まる。

メンバーの皆様も、事故には至らなかったが
ヒヤっとした、という事はありませんか？

今回は2月16日(水)に、八王子市小津町の活動地で訓練を実施しました。



想定：
林内を移動している時に転倒して
足首を捻挫した。
対応：
湿布などで患部を冷やし、テーピング・包帯・三角巾などで固定する。

想定：
鋸の下に手を置いてしまい刃で
腕を切った。
対応：
流水洗浄、消毒、圧迫止血する。
出血部位は心臓より高くする。



想定：
車両から活動場所へ移動中、胸を
押さえて転倒した。
対応：
AEDを装着して除細動を行う。



想定：
救急車を待っている時に寒さを訴え
震えている。
対応：
エマージェンシーシート(アルミ保温
シート)で身体を包み、暖かいもの
を経口する。





傷病者搬送訓練

車載の担架を組み立てて、事務局車、もしくは救急車のところまで搬送する。ただし、搬送者が少ない場合や、狭い道や傾斜した道では搬送者の転倒などの二次災害のリスクがあるので、その場合は救急隊が来るまでのベッド代わりにする。

訓練を終えて。
実際に活動現場で救護活動を行ってみると、机上の想定通りにならないことが多々あることに気づかされます。
感想や意見、改善案などを話し合っ、次回の訓練に活かしていきます。



ご覧いただきありがとうございました。

8月には上級救命講習を予定していますので、未受講の方は是非ご参加ください。

今後も、メンバーの皆様が安全にかつ快適に活動ができるように指導員及び事務局全員でサポートしてまいります。